

9

建築確認申請受付状況

年度	区分	総数	用途別		工事種別	
			住宅(併用を含む)	住宅以外	新築	増改築
平成14年度	旧水海道	201	154	47	78	123
	旧石下	130	94	36	72	58
	民間	180	159	21	96	84
平成15年度	旧水海道	115	82	33	48	67
	旧石下	63	48	15	35	28
	民間	351	327	24	191	160
平成16年度	旧水海道	73	46	27	21	52
	旧石下	33	20	13	17	16
	民間	417	374	43	257	160
平成17年度	旧水海道	55	21	34	15	40
	旧石下	36	22	14	14	22
	民間	434	375	59	247	187
平成18年度	常総市	64	35	29	30	34
	民間	529	462	67	337	192
平成19年度	常総市	34	13	21	16	18
	民間	482	434	48	299	183
平成20年度	常総市	18	10	8	6	12
	民間	424	394	30	271	153
平成21年度	常総市	9	7	2	4	5
	民間	384	338	46	244	140
平成22年度	常総市	16	6	10	3	13
	民間	400	339	61	251	149
平成23年度	常総市	17	9	8	5	12
	民間	395	347	48	214	181

※ 用途別で共同住宅は住宅に含む。

資料:建築課

新設住宅着工は100万戸割れが続く

2010年度の新設住宅着工は、住宅エコポイント制度も追い風となり、81.9万戸と前年度比5.6%増となったが、2年連続して100万戸割れとなった。かつては、1972年度の185万戸をピークに1967年～2008年までの42年間は1度も100万戸を割ったことがなかった。バブル景気に沸いた90年度166万戸や、消費税引上げ前の駆け込み需要が見られた96年度163万戸は格別としても、2006年度までは120万戸前後で推移してきた。07・08年度は103万戸、09・10年度は80万戸前後の低水準となっていた。

これらの要因としては、リーマン・ショックを契機とした景気後退による厳しい雇用・所得環境等も挙げられるが、一方で我が国は05年度から人口減少に入り、住宅の空家率も13.1%（総務省統計局「2008住宅土地統計調査」）と過去最高水準に達している。これらを考慮すると、今後はかつてのような着工水準に戻る可能性は極めて低いと言えよう。

(財)日本統計協会「統計でみる日本2012」より